

情報連絡一覧票 (石川県中央会・平成19年7月分)

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合及び組合員の業況等 (景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)	
製 造 業	食料品	調味材料製造業	前年同月に比べ、出荷量は大幅に減少しており、低迷が続いている。
		パン・菓子製造業①	能登半島地震に対する風評被害がまだ強く残っており、観光客が少ない。その影響で売上高も減少している。
	繊維・同製品	織物業①	引合は十分にあるが、諸経費の高騰により収益の改善が見られない。
		織物業②	絹分野では不需要期でもあり、厳しい受注状況が続いている。合繊分野では高密度スポーツ素材において堅調な動きが見られる。
		その他の織物業	昨年同月に比べ1売上が15%減少した。一向に回復の兆しが見られない。当面はこのような状況が続くものと思われる。
	木材・木製品	製材業、木製品製造業①	売上高、販売数量ともに増加し、販売価格も上昇した。景況は上向きに転じる気配が感じられる。
		製材業、木製品製造業②	7月度は、前月と変わらず価格が下げ基調であり、回復には予想以上の時間が掛かるとの見方である。価格の安定化が望まれるが、先行きは不透明な状況である。
	窯業・土石製品	生コンクリート製造業	県内の生コンクリート出荷量は、前年同月比117.5%のプラス出荷となった。県下全域でもプラスであるし、官公需や民需でもプラスとなった。
		粘土かわら製造業	中越沖地震でまたも瓦が重くて家屋が倒壊するといった風評被害が出て困っている。
		陶磁器・同関連製品製造業	首都圏での展示会の準備とともに来年5月に第100回目を迎える茶碗まつりについての準備委員会を発足した。
		碎石製造業	7月の組合取扱い出荷量は、対前年同月比で生コン向け出荷量が14.46%増加となり、合材用アスファルト向け出荷量が26.3%減少したものの、全体出荷量で9%増加となった。しかし、4~7月のトータルでは対前年同月比7.5%減少しており、厳しい状況にある。
	鉄鋼・金属	鉄素形材製造業①	原油価格の高騰に端を発した工業材料の値上がりは、景気を左右し企業経営を圧迫してきている。値上げ交渉は落ち着きを見せているものの、ユーザーニーズは一層の原価低減、品質の向上を迫ってきている。
		鉄素形材製造業②	前年同月に比べて受注数が減少傾向にある。
		非鉄金属・同合金圧延業	売上は前月比約4%増加したが、その他は特に変化が見られない。
		一般機械器具製造業	現在、どこの企業でも原材料価格の上昇問題と人件費の増加が問題となっている。販売価格にも転嫁出来ないのが現状である。
	一般機器	機械金属、機械器具の製造	建設機械関連は引き続き好調だが、工作機械関連は自動車工業向けや国内向けの需要が上がらないことの影響で多少ダウンしている。しかし、操業度は安定して推移しており暑い夏場を乗り切るには多少の余裕が有難い。
		プレス、工作機械	小型工作機械業界は低調に推移しているため、受注が減少している。
		機械器具及び其の他金属製品の製造	南加賀地区では益々繁忙になるものと思われる。だが、人材が不足しており、この事が大きな問題となりそうである。
繊維機械製造業		鉄工業界の景況は全体的に好調であり、今年いっぱいには大きな落ち込みは無いという見方が大勢である。しかし、個々の企業で見ると取引先によっては調整局面に入っているところもあり、仕事量や受注量が減少しているところも見られるようになってきた。	
その他の製造業	漆器製造業①	能登半島地震及び中越沖地震により観光客が大きく減少している。	
	漆器製造業②	出荷額は依然として低調で、新カタログの販売額も大幅ダウンの模様。例年の夏場以上に静かな状況が感じられ、特に伝統的な木製漆器中心のメーカーは厳しい状況にあり、人員削減等のリストラが進んでいる。	

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合及び組合員の業況等 (景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
卸売業	繊維品卸売業	良いという話が全く聞こえなくなりました。業者間でも格差が生じている。
	農畜産物・水産物卸売業	7月は売上高がまた減少となった。いつ回復するのか注視していきたい。業界が好転するような材料も全く見当たらない。
	一般機械器具卸売業	6、7月と夏らしい天候ではなかったため、季節商品であるエアコンの販売が振るわず、全体的に活気が感じられない。特に大型の官庁物件も無く厳しい状況が続いている。しかし、工場設備関連の得意先がある組合員企業はそこそこの数字をあげている。
小売業	百貨店・総合スーパー	7月の売上は前年同期に比べ97.7%と若干下回った。ファッション関連の落ち込みが大きかった。
	男子服小売業 婦人・子供服小売業	夏本場に期待したが、日照不足等の影響により夏物衣料全般において苦戦し、前年比96.5%で推移した。
	鮮魚小売業	7月初旬や中旬は入荷量が少なく価格も安定しなかった。下旬に入り入荷量も増えたが、暑くなると魚の売上が落ち、焼物にするなど苦勞が多い。
	野菜・果実小売業	低温・日照不足の影響から入荷量がやや下回り、販売価格は前月に比べやや高騰した。
	米穀類小売業	米の消費の減少は前月と同じで、その他として単価の低迷、消費減退による販売数量の減少と苦しい状況が続いており、今後の動向に注視しなければならない。
	機械器具小売業	7月の地域店の伸びは前年比102%であった。液晶・PDPテレビの好調は継続しているが、ルームエアコンが不振であったため全体の足を引っ張る形となった。
	燃料小売業	卸価格の上昇も比較的順調に小売価格への転嫁が進んでいるが、未だにマージンは充分とは言えない。最大需要期の8月も大幅の値上げの通知があり、昨年の最高値を更新しそうである。
	他に分類されない その他の小売業	新潟中越地震の影響により、観光客数に影響が生じ、売上が減少した。
商店街	近江町市場	近江町市場の再開発工事の影響なのか来街者数が減少しており、売上高や収益も悪化している。
	尾張町商店街	先月から動き始めた景気の勢いは、とまかく止まらず、ゆっくりと、本当に動いているかと思直さなければならないが、とにかく何かしらの動作は感じられる。これまでも不景気はあったが、今回は自分の体力がどれだけ残っているかにかかっているような停滞景気といえよう。
	片町商店街	7月はバーゲンセールの日であったため、休日、平日と共に集客が多く、全体的に売上も増加した。また飲食店の新規オープン、リニューアルが目立った。
サービス業	旅館、ホテル①	中越沖地震による影響と個人消費の減少により大変厳しい状況である。また、駅前において大手ビジネスホテルが進出したことにより、既存のビジネスホテルは価格競争を強いられており、苦戦している。
	旅館、ホテル②	能登半島地震の影響はやや回復したものの、中越沖地震の影響により再び厳しい状況に陥った。
	旅館、ホテル③	能登半島地震の風評被害がまだ続いており、前年同月に比べて2割も客数が減少している。予約の数も減少しており極めて危険な状況におかれている。
	旅館、ホテル④	能登半島地震、中越沖地震の影響からか首都圏のお客様の予約が減少している。全体的には若干ではあるが回復傾向にある。
	自動車整備業	継続検査実績車輦数は、前年同月比5.1%増、前月比6.8%増となった。新規検査状況は、前年同月比5.1%減、前月比0.2%減となった。

情報連絡一覧票 (石川県中央会・平成19年7月分)

建設業	一般土木建築工事業	建設産業は、毎年建設投資が削減され、業者間の競争が激しく、加えて入札制度の見直し等による一般競争入札の低価格受注が相次いでおり、収益低下を人件費の抑制でしのいでいる状態であり、経営安定の方向が見えていない。中小の建設業は、底辺に向かって下降を続けている感がある。
	板金・金物工事業	売上高は地域差があるものの、増加傾向が見られる地区が増加している。しかし、依然として流動的である。取引条件、収益状況では価格の凌ぎ合いが続いており「儲け無し」の状況にある。資金繰りも好転の兆しは見え、銀行では貸し渋りをしているところもある。
	室内装飾工事業	箱物工事の減少により、同業者間の競争が激しくなってきたことで、諸条件が徐々に悪化してきている。
運輸業	一般貨物自動車運送業①	軽油価格がまた値上げされ、過去最高水準となった。収益状況の悪化が予想される。価格の安定が望まれる。
	一般貨物自動車運送業②	軽油価格のアップが続き、収益・資金繰りが悪化している。軽油価格の高騰分の運賃への転嫁はまだまだ進んでいない状況である。